目次

Ⅰ. 発刊に寄せて（郡上市長、郡上市議会議長） ………………………… 1
Ⅱ. ふるさと郡上へのみんなの想い ……………………………………… 2
Ⅲ. 郡上市のこれまでとこれから…………………………………………… 4
・地域に根差した産業を育てるまちづくり …………………… （ 4）
・郡上の資源を活かした観光振興のまちづくり …………… （ 6）
・移住、定住、交流のまちづくり ……………………………… （ 8）
・町並みと自然環境を守り育むまちづくり …………………… （10）
・安全、安心な暮らしを守るまちづくり ……………………… （12）
・生活を支える社会基盤整備を進めるまちづくり ………… （14）
・結婚・子育て支援等、未来に向けたまちづくり …………… （16）
・健康的な生活と福祉の充実を進めるまちづくり ………… （18）
・生涯スポーツの推進とスポーツを通じたまちづくり ……… （20）
・心豊かな教育、文化、人を育むまちづくり ………………… （22）
・市民と行政が協働して進めるまちづくり…………………… （24）
・個性あふれる特色ある元気な地域づくり ………………… （26）
Ⅳ. 15年間の主なできごと ………………………………………… 28
Ⅴ. 市民憲章、市のシンボル、市の歌 …………………………… 31
Ⅵ. 郡上市の人口・財政データ…………………………………………… 32

発刊に寄せて

郡上市長
日置 敏明

“ずっと郡上”“もっと郡上”

平成16年3月1日、八幡町、大和町、白鳥町、高鷲村、美並村、明宝村、和良村の3町4村が合併し、「郡上市」が誕生しました。今年、合併・市制施行満15年を迎えたことから、これまでを振り返り、これからの郡上市づくりへの想いを新たにするため、記念冊子を発刊いたしました。本誌には、これまでの郡上市の主な取り組みのほか、地元で活動する市民の皆様24人の将来への夢や希望なども載せさせていただいております。

この15年間は、一つの都市自治体としての基盤を整える重要な期間でありました。財政の健全化は言うに及ばず、「住みたい、輝きたい、訪ねたいまち郡上」に向け、福祉の充実、子育て支援、「郡上学」のすすめ、農業等担い手の育成、道路網の整備、雇用や移住・定住対策、防災・減災対策、そして「観光立市郡上」の推進等に一丸となって取り組んでまいりました。

一方で、人口減少問題は深刻化し、郡上市は合併当時から8,000人余の人口が減少していますが、私たちの“ふるさと郡上”がこの先もずっと魅力溢れるまちであるよう、この地域の資源や人材をもっともっと活かし、郡上ならではの活性化策に知恵を絞ってまいります。

まだまだ合併・市制施行15年。50年、100年先の郡上の子どもたちの笑顔のため、市民の皆様とともにもっと元気な郡上市づくりに取り組んでまいりたいと存じますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郡上市議会議長
兼山 悌孝

郡上市制 15年に向けて

平成16年3月1日に、郡上郡7町村が合併し、郡上市が誕生してからはや15年が経過いたしました。

途中から延長されていた交付税の算定替えや合併特例債などの特例措置も、平成30年度で終了し、新元号「令和」となった本年度からは普通の「市」として歩みだしたわけですが、やっと合併の名残が終わり、これからが合併による本格的なメリットとデメリットが顕著になってくるのであろうと思います。

平成13年の秋、突如として町村長会から発表された合併の話から、任意による合併協議会、各町村でのアンケート調査を経て、正式な協議会を設置し、7町村の対等合併をまず取り決め、各町村の建設計画、名称、公共料金の均一化、議員定数の合意など、ありとあらゆる取り決めを、喧々諤々と行ってきた記憶が、最近は薄れてきています。

当時の誰もが懸念したのは、「合併により不公平な取り扱いを受けないか」でありました。それを担保するため地域審議会を合併前の町村ごとに置き、建設計画の進捗率を議会とともに注視してきたことで、これまで対等合併であったことが確認されてきたと思っています。

「以前は誰もが旧町村名を名乗っていたけれど、最近は聞かなくなった」と誰かが言っておられましたが、市民の心も「市民」になった証であろうと思います。そんな経過を経ているうちに、合併を決断された当時の予想どおり、当初4万9千人を数えた人口も、今では4万2千人を割り込むほどに減少し、若者の市外流出による人口減少から、出生数の激減による人口減少へと様変わりしました。

時代の流れとはいえ、これ以上、地域力を衰退させないために、私たち議会もいっそう研鑽し、自ら改革しながら市民の皆様の負託に応えられるように、或いは、時にオピニオンリーダーとして、これまで以上に精励してまいりたいと思いますので、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。